

# 工学気象研究所

## 知識・知見生かし工学的行動へ

電力インフラに求められる重要な要素は安全・安定など信頼性で、多くの設備が屋外にある送電・配電などは自然の影響、とりわけ気象災害への対策は重要な課題となる。また、設備の有効活用などアセットマネジメントの観点からは耐候性能の評価が求められ、その判断のために長期的な視野に立った気候・気象状況の評価が重要だ。

さらに、今日的には障害発生時や被害発生時に、被災状況の把握と関連する気象状況の把握および原因の推定など設備管理者の説明責任も重視されている。これらの課題に対して、工学気象研究所（東京都文京区、高坂裕之代表取締役）では、過去、数多くの大規模な電力設備に対する設計気象値推定マップや、着氷・着雪・台風・塩害などの事故時における

気象要因の解析資料提供、設備の劣化などに関わる気象要因の解析などを行っている。そしてその技術・知見は鉄道業界にも応用されている。

インフラ設備の気象災害対策や被災の評価を行うためには、気象の知識はもとより、設備の特色に対する理解、立地する地理的な条件にも着目しつつ、気象データを分析する必要がある。送電設備などは気象庁がカバーしていない山岳地や沿岸など、気象官署・アメダス観測個所の気象条件に比べより環境の厳しい場所での気象データが必要になる。その場合、独自の気象観測地点を設置しての観測が不可欠となってくる。

設備の設計などにおいては、観測した気象データに気象庁の気象データを加えて、50年、100年間などの長い期間に一回発生する可能性を示す再現期間値という極値統計的指標を推定し評価する。未観測地点の気象値の推定にはシミュレーションも欠かせない技術だ。

このように気象災害への対策を検討し、万が一の場合にはより適切な判断と説明責任を果たす意味でも気象の知識を工学的な行動に役立てる事がますます必要となっている。

同社では信頼性を担保するための各種気象観測からシミュレーション、気象解析とその結果評価までを一貫して実施することにより、研究室の机上だけでは得られない様々な知見を、電力設備時を熟知している技術者の視点から提供しており、電力の信頼性向上の一翼を担っている。



同社の汚損観測装置。吊り方を変えた懸垂端子連への付着量と汚損に関連の深い風向風速を同一個所で測定し、分析を行い気象と汚損の相関を見いだす



気象に関する調査、研究、解析、システム構築  
をお手伝いします。

お気軽にお問い合わせください。

## 気象の知識を工学的行動に役立てる

### 業務内容

#### ●観測業務……自然を調べる

フィールドにおける気象観測・調査(設計、システム構築、点検保守)など。

#### ●調査解析業務……自然を理解する

気象データ収集・解析、推定マップ作成、シミュレーション、文献調査、データベース作成など。

#### ●コンサルティング業務……自然と調和する

自然災害の設備への影響評価・対策検討などのコンサルティング。関連セミナー講師派遣。

# MeRIT

METEOROLOGICAL RESEARCH INSTITUTE  
FOR TECHNOLOGY CO.,LTD.

株式会社 工学気象研究所

〒113-0033 東京都文京区本郷1-30-7 エムアールビル6階

Tel:(03)5800-0241(代表) Fax:(03)5800-0243

URL:<http://www.kougakukishou.co.jp/>

代表取締役 高坂 裕之

技術者を募集しております。  
下記まで、お問い合わせください  
[job-hunt@kougakukishou.co.jp](mailto:job-hunt@kougakukishou.co.jp)



MeRIT

